

令和6年度 学校教育部会 成果報告

1 テーマ

「主体的・対話的で深い学び」を実現し、自らの成長が実感できる授業の展開【質的授業改善】

2 令和6年度重点内容

(1) 合同研修会の充実

- ① 授業改善の方向性を示す3つのポイントを意識した授業改善の推進
- ② 学びの質を高める「5つの方策」の推進
- ③ 伊江島スタンダード型授業の推進
- ④ 学びが実感できる指導の取組を行う。(単元を通して身についた力を実感させる)
- ⑤ 学級経営の充実、児童会・生徒会活動の充実を図り、幼児児童生徒の自己肯定感を高める。



SD研(伊江小)



道徳研(伊江中)



教科研(伊江中)

(2) 教師の学びを見童生徒に還元する取組み(校内研修の充実)

- ① 児童生徒の実態を把握し、校内研修の充実し、教師の指導力の向上と児童生徒の学力の向上に取り組む。



授業改善学習会(小中)



幼小接続研(両園・両小)
令和6年度学力調査結果



村幼稚園教諭研

令和6年4月～6月実施(全国学調・学びのたしかめ)

| 小学校4年生 | | 小学校5年生 | | 小学校6年生 | | 中学校1年生 | | | 中学校2年生 | | | 中学校3年生 | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|-----------|-----------|---------------|------|----------------|------|-------------|--------|--|--|
| 学びのたしかめ6月 | | 学びのたしかめ6月 | | 全国学調4月 | | 学びのたしかめ6月 | | | 学びのたしかめ6月 | | | 全国学調4月 | | |
| 4年 | 国語 算数 | 5年 | 国語 算数 | 6年 | 国語 算数 | 1年 | 国語 数学 英語 | 2年 | 国語 数学 英語 | 3年 | 国語 数学 英語 | | | |
| 県 | 39.6 52.8 | 県 | 52.6 38.9 | 県 | 66.0 58.0 | 県 | 65.5 50.5 | 県 | 56.1 44.9 49.7 | 県 | 53.0 43.0 | | | |
| 地区 | 34.2 46.3 | 地区 | 48.7 35.4 | 全国 | 67.7 63.4 | 地区 | 59.9 43.9 | 地区 | 50.0 40.2 44.6 | 全国 | 58.1 52.5 | | | |
| 村 | 34.0 48.9 | 村 | 54.1 36.5 | 村 | 71.0 60.0 | 村 | 62.4 46.3 | 村 | 51.7 44.0 50.1 | 村 | 43.0 25.0 | | | |
| 県との差 | -5.6 -3.9 | 県との差 | 1.5 -2.4 | 県との差 | 5.0 2.0 | 県との差 | -3.1 -4.2 0.0 | 県との差 | -4.4 -0.9 0.4 | 県との差 | -10.0 -18.0 | | | |

令和7年2月実施(県到達度調査)

| 小学校4年生 | | 小学校5年生 | | 小学校6年生 | | 中学校1年生 | | | 中学校2年生 | | | 中学校3年生 | | |
|--------|--|----------|-----------|----------|-----------|----------|----------|---------|----------|--|-------------|--------|--|--|
| | | 県到達度調査2月 | | 県到達度調査2月 | | 県到達度調査2月 | | | 県到達度調査2月 | | | | | |
| | | 5年 | 国語 算数 | 6年 | 国語 算数 | 1年 | 国語 数学 英語 | 2年 | 国語 数学 英語 | | | | | |
| | | 県 | 57.4 41.4 | 県 | 69.0 55.9 | 県 | | 48.2 | 県 | | 28.1 51.1 | | | |
| | | 地区 | 54.2 37.4 | 全国 | 66.8 54.7 | 地区 | | 49.1 | 地区 | | 26.9 49.3 | | | |
| | | 村 | 55.9 43.1 | 村 | 70.4 65.6 | 村 | | 51.3 | 村 | | 29.5 51.3 | | | |
| | | 県との差 | -1.5 1.7 | 県との差 | 1.4 9.7 | 県との差 | | 0.0 3.1 | 県との差 | | 0.0 1.4 0.2 | | | |

3 令和6年度学力調査の結果

【学力調査考察】

小学校6年生では4月の全国学調において県平均を上回っている。2月の県到達度調査において9科目中6つの科目(小5算、小6国・算、中1英、中2数、英)で県平均を上まわっている。R5の上半期は県の平均を超えることはなかったが、令和6年度は各学校の取組みが充実し、学力面で大きな飛躍が見られた。

4 成果と課題 (○成果、▼課題・改善策)

【取組み1 (合同研修会)】

- 保幼小中合同研修会(全8回)を通して、ほぼ全学級が授業を公開するなど新たな研究の在り方を構築できた。
- 今年度は幼小接続研修会をきっかけに、同じ指導案での公開保育・授業が行われ(伊江幼・小)にて実施され、互いの校種による理解が深まり、幼児・児童の充実した交流が実現した。(教師の学びが子どもに還元できている好事例)
- 夏休みに行われた保育所参観では、幼稚園教諭、保育士の子どもの様子(状況)を見取る視点を学ぶ事ができ、授業改善に活かされた。
- ▼小中、保幼の更なる授業観、保育観を交えた交流を行いたい。

【取組み2 (校内研修の充実)】

- 児童生徒の実態に応じた校内研修の充実が図られ授業改善に繋がった。
 - 【伊江中】授業において効果的にICTが活用されるとともに、全教諭による道徳のローテーション授業、互見授業、外部講師を招聘した教科会が活発に行われ、授業改善が進められている。
 - 【伊江小】教師が主体となった学力向上のための取組み(補習指導の充実)や、校内研修の充実が図られるとともに、児童の主体性が育まれている。
 - 【西小】校務のDX化が進み、各学年の動きが瞬時に把握でき、クラウドを活用した授業改善が進んでいる。幼小がうまく接続できており、どの学年も交流を重ねている。
- 全国学力学習状況調査・県到達度調査の結果を考察し、各学校が授業改善に努め、児童生徒の課題に即した対応がなされている。(上記の考察参照)
- ▼同学年の担任同士で行う学年会を年間計画に位置づけ授業改善を図る。
- ▼小中での授業研究会(互見授業)を開催し、授業改善に活かしたい。

学力向上を推進する観点から、数字にて根拠を示すことになるが、数字をあげるためだけの取組にせず、児童生徒一人一人にその学年の学習を確実に身につけさせることが目標である。教職員の研修会はそのためであり、教師の授業力向上が子供達によりよい効果をもたらす。

今年度も昨年度同様、児童生徒の実態に応じた取組みにすするため、合同研修会と各学校における校内研修の充実に焦点をあてて取り組んだ。

引き続き学校教育部会においては、児童生徒が学習に主体的に取り組めるよう、授業改善を推し進め、「自立した学習者」の育成を目指していく。